

不妊治療によって出産した児の予後調査

(分担研究：不妊治療の実態及び不妊治療技術の適応に関する研究)

分担研究報告書

研究協力者：松戸市立病院新生児科

竹内 豊

要約：自施設における不妊治療妊娠母体から出生した児の予後調査を行ったところ、予後不良の原因としては不妊治療そのものよりも品胎以上の多胎妊娠が大きな影響を与えているようであった。

研究方法：今年度は1992年から1995年の4年間に自施設産婦人科にて分娩した不妊治療によって妊娠した母体と、その出産児について不妊治療の内容と児の予後を調査した。さらに自施設NICUに収容した多胎児について、不妊治療と予後との関連を調査した。

結果

I、自施設で分娩した不妊治療による妊娠母体例とその児に関する調査

表1に4年間に分娩した不妊治療を受けて妊娠した母体の背景を示す。

表1 不妊治療による妊娠・出産母体

(1992-1995 松戸市立病院)

不妊治療後出産母体数	81
出産時母体平均年齢(歳)	31.2 ± 4
不妊治療の内訳	
排卵障害治療	69 (85.2%)
AIH	6 (7.4%)
IVH	6 (7.4%)

この間における全分娩数は2293であり、不妊治療による妊娠母体の比率は3.5%であった。不妊治療の内容としては排卵障害治療が最も多く85.5%を占めていた。

表2に不妊治療と妊娠時の胎児数との関連を示す。

表2 不妊治療と妊娠胎児数

	単胎	双胎	品胎	4胎
排卵障害治療	54	11	4	
AIH	5	1		
IVF	2	2		2*

*減数して双胎となる

多胎妊娠は81人中20人(24.7%)と高率にみられた。不妊治療毎の予後比較では有意差ある結果は得られないが、胎児数毎の予後比較では表3に示すように品胎以上の多胎で予後不良が目立つようになり、早産・低体重の程度も顕著であった。

表3 胎児数と出産時の成熟度と予後

	平均在胎週数	平均出生体重g	予後良好	予後不良
単胎児 61	39.26 ± 2.64	2955.4 ± 502.5	59	2
双胎児 30	36.57 ± 3.36	2227.3 ± 525.1	29	2
品胎児 12	33.75 ± 0.94	1604 ± 190.1	10	2
4胎児 4	29.7 ± 0	1116.5 ± 94.5	3	1

II、NICU収容多胎児についての不妊治療との関連に関する検討

上記の結果のように、不妊治療妊娠母体から出生した児の予後不良は多胎児で早産児

に多いことがわかった。そこで自施設新生児科病棟に 1992 年から 1994 年の 3 年間に入院した多胎児について予後を検討した。対象としたものは不妊治療を受けて妊娠した母体より出生した児 18 例で、全例早産低出生体重児であった。対照として同時期に入院した在胎 38 週未満に出生した自然妊娠多胎児 95 例を選び比較検討した。

表 7 に対象患者のプロファイルを示し、表 8 に予後不良例一覧を表す。

表 7 NICU 収容多胎児の妊娠による比較

	不妊治療	自然妊娠
症例数	18	95
平均在胎週数 ^w	33.1 ± 2.93	34.3 ± 2.86
平均出生体重 ^g	1647.4 ± 444.5	1796.1 ± 451.8
多胎内容		
双胎児数	8 (1)	88 (10)
品胎児数	6 (3)	7
4 胎児数	4 (1)	

注 () 内は予後不良例

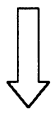
病的新生児として NICU に入院した不妊治療による多胎児は全て早産低出生体重児であった。予後不良例をみると双胎児では 1 例のみ(29.1 週、1092g)予後不良であった。自然妊娠児では 10 例を数え、かなり成熟している児にも不良例がみられた。品胎・4 胎では不妊治療による多胎児 10 例中 4 例に予後不良がみられた。

まとめ

- 1, 1992 年から 1995 年の 4 年間に自施設産科における不妊治療による妊娠母体の分娩は 81 例あり、全分娩の 3.5%であった。排卵障害治療によるものが 85.2%を占めていた。
- 2, 上記母体より出生した児の予後は不妊治療の内容よりも胎児数に影響を受けていた。特に品胎以上の多胎児はより未熟性が強く、予後も不良であった。
- 3, NICU に入院した多胎児を不妊治療と自然妊娠とに分けて比較したところ、不妊治療による児の予後不良は品胎以上の多胎であり、双胎における予後不良は自然妊娠例において高い発生がみられた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:自施設における不妊治療妊娠母体から出生した児の予後調査を行ったところ、予後不良の原因としては不妊治療そのものよりも品胎以上の多胎妊娠が大きな影響を与えているようであった。